

令和7年度 山陽学園大学 登録日本語教員養成課程 自己点検・評価報告書

令和8年10月16日

登録日本語教員養成課程委員会

登録日本語教員養成機関としての適正かつ確実な運営を担保するため、本学「日本語教員養成プログラム」について、山陽学園大学登録日本語教員養成課程に関する細則第26条に基づき、令和7年度の実施状況について自己点検及び評価を行った。

1. 養成課程の概要

- ・課程名称：日本語教員養成プログラム
- ・設置学科：総合人間学部 言語文化学科
- ・開始年月：令和7年4月（登録：令和6年11月29日）
- ・収容定員：80名

2. 自己点検・評価項目

(1) 養成課程の内容

「登録日本語教員養成課程コアカリキュラム」に準拠し、適切な授業編成、シラバスの周知、成績評価および修了審査が行われているか。

基準項目	実施状況・点検結果	評価
① コアカリキュラムの項目を網羅したカリキュラム編成	コアカリキュラムの項目を網羅した必修13科目（計26単位）を開設している。 開設初年度のため3科目（計6単位）を開講した。	適切である
② シラバスへの授業概要、到達目標、成績評価基準、テキスト等必要事項の明記	基準項目に記載の項目に加え、自習内容や時間、参考図書等を記載したシラバス様式で、申請内容のとおり適切に作成している。	適切である
③ 受講者数の受け入れ及び授業運営	課程履修者：1年次 13名 すべて授業を対面で実施した。	適切である
④ 学修成果の評価と修了審査	第19条、第20条に基づき、適切な採点基準が定められ、主任教員の下承を得て評価・修了審査が行われたか。 ・成績評価プロセスの厳格性。 ・修了審査の実施状況と結果。	適切である

(2) 教員体制

養成課程の実施にあたり、十分な知識・経験を有する教員が適切に配置されているか。

基準項目	実施状況・点検結果	評価
① コアカリキュラムに示された内容に関する十分な知識及び経験を有する教員の選定	申請どおりの教員で適切に実施している。	適切である

② 教員 3 人以上（うち専任教員 1 人以上）を配置、及び編成および運営の責任者として主任教員 1 名の配置	申請どおりの教員数 9 名（うち日本語教員課程の専任教員 3 名）で適切に配置している。 また、准教授 1 名を主任教員として配置している。	適切である
③ 教員の資質向上のための取り組みを実施	日本語教員養成課程の科目担当教員向けに、日本語教育の参照枠に関する資料を配布し、情報を共有している。	適切である

（３）施設及び設備

養成業務を円滑かつ効果的に実施するための施設・設備・備品が整備されているか。

基準項目	実施状況・点検結果	評価
① 講義室・演習室の維持、机・椅子・プロジェクター等の配置	使用教室は、各種機器等が配置され、適切に維持されている。	適切である

（４）受講者の評価

受講生の成績評価が厳格かつ客観的に実施されているか。

基準項目	実施状況・点検結果	評価
① 厳格かつ客観的な成績評価の実施	本学学則及び諸規程に基づき、各授業担当者により適切に実施されている。	適切である
② 修了認定及び修了証の交付の適切な実施	開講初年度で、修了認定に該当する受講生がいなかったため実施していない。	未評価

（５）その他必要な事項

その他、適正な業務運営等が行われているか。

基準項目	実施状況・点検結果	評価
① 適切な業務運営の実施	事務局の本務職員 1 名が事務責任者として配置され、各担当部署において適切に業務運営がなされている。 また、養成課程の適切な維持及び学生に対する適切な指導を実施するため、登録日本語教員養成課程委員会を設置し組織的に取り組んでいる。	適切である

3. 総合評価

令和 7 年度における「日本語教員養成プログラム」の点検・評価の結果、すべての項目において「山陽学園大学登録日本語教員養成課程に関する細則」及び国が定める登録基準を満たしており、適正かつ確実に養成業務が実施されていることを確認した。

今後は、日本語教育を取り巻く社会的な動向を踏まえ、さらなる教育の質の向上に努める。
加えて、実践研修との連携も視野に入れ、本プログラムの改善を継続していく。